

読書活動だより.75

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田 53-1
静岡県立中央図書館内
TEL 054-262-1246



音声を活用した 読書の効用

静岡県読書推進運動協議会理事
静岡県立中央図書館長
高橋 健二

☆人は黙読の際に頭の中で文字を音声化する「内言 (inner speech)」を行っているが、日々音読を繰り返すことで、この音声化を経ず迅速に意味が理解できるようになる。
☆読み手の読解力が低い場合、音読は個々の単語に強制的に注意を配分させるため、黙読よりも理解度が高まる。

上記は、英語の授業内で音読活動をする際、私が根拠としていた指導理論です。シャドーイングなど様々なスタイルの音読に取り組むことで、生徒たちの読解力が向上していく様子を目の当たりにし、「音声を活用した読み」の有効性を実感させられました。

子ども対象の読書推進運動において、読み聞かせやパネルシアター等、音声と視覚情報をリンクさせ、楽しみながら読書に親しんでもらう活動が数多くありますが、大人に対しても音声と連動した読書は大変有効です。今回は集中力アップや記憶の定着を意識して、私が普段実践している2つの読み方を紹介します。

【部分的音読】

疲れた時に読書をして、内容が頭に入らない事があります。そんな時は自分の注意を書籍に集中させるために、敢えて音読から読書を始めるのが効果的です。一度話の流れが頭に浮かべば、意識しないうちに黙読に移行していきます。また集中が途切れたら再度音読を試みる。部分的音読の導入で内容理解は深まり、発音トレーニングにもなる。まさに一石二鳥です。

【オーバーラッピング】

近年オーディオブックなどの音声コンテンツに加えスマホで録音した音声や YouTube 等、様々な音源が簡単に利用できるようになりました。内容を暗記して活用したいテキストや書籍がある場合、音声を使って何度もオーバーラッピングしてみましょう。流れる音声に合わせて文章を目で追い、音読や黙読をします。一般的に読み上げ速度は黙読速度より遅いので、黙読時は1.5倍速等で聴くとタイパも向上！記憶の定着に有効なこの方法は、外国語学習など様々な学びに役立ちます。

このように、音声とリンクした読書は認知機能の維持にも役立つ心強い味方です。早速お気に入りの本を手にとって、今日から試してみませんか？

《内容紹介 (もくじ)》

◎巻頭言……………1
静岡県読書推進運動協議会理事 高橋健二

◎令和6年度優良読書グループ紹介……………2

★(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)
「りぼんクラブ」(三島市)

★静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)
「天城中学校図書ボランティア」(伊豆市)

「清水おはなしグーチョキパー」(静岡市)
「焼津音訳の会ほおずき」(焼津市)
「図書館ボランティアどんぐり」(湖西市)

◎静岡県図書館大会 講演会報告……………3

◎静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会報告・4

◎静岡県読書推進運動協議会推薦図書……………4

令和6年度 優良読書グループ紹介

(公社)読書推進運動協議会長賞 (全国表彰)

【りぼんクラブ (三島市)】

りぼんクラブは、三島市民生涯学習センターを拠点に、人形劇やおはなし会を続け、今年で35年目を迎えます。発足当時は市内のいくつかの幼稚園で、母親たちが人形劇や読み聞かせのグループを作り、園児たちに届けていました。わが子の卒園後もおはなしの活動を続けたい人たちが中心となり、地域を越えて仲間を募ったのが、りぼんクラブのはじまりでした。以来引き継がれ、現在も熟年となったメンバーが毎週木曜日に集い、雑談に花を咲かせながら、人形劇の制作や練習に励んでいます。

公演は、近隣の幼稚園、保育園、子育て支援・福祉施設などで、年に10回余り行い、子どもたちから元気をもらっています。おはなし会は、毎月第4土曜日に児童センターで開催しています。手袋人形や、パネルシアター、わらべうたなどを入れ子どもの興味をさそう、多彩なプログラムを心がけています。

また、三島市地域活動連絡協議会の一団体として、毎年、工作講座やおもちゃバザーなどを企画、運営し、児童センターを応援しています。これも大切なもう一つの活動です。

こうして長年続けてこられたのは、常に温かく見守り支援して下さる生涯学習課、児童センター、図書館の職員の方々のおかげと深く感謝しております。

受賞の喜びを仲間で分かち合い、今後もとっておきの人形劇やおはなし会を楽しく、地道に届けていきます。



静岡県読書推進運動協議会長賞 (県表彰)

【天城中学校図書ボランティア (伊豆市)】

天城中学校図書ボランティアでは、生徒たちが豊かな読書活動を行うために主に以下の3つの活動を行っています。

第一に、月1回の「読み聞かせ」の活動を実施しています。内容は「語り」、「朗読」、「絵本の読み聞かせ」など多岐に渡ります。

第二に、学校内図書館前の掲示物の作成を月3回程度行っています。季節に関する掲示をはじめ、四季にふさわしい本の紹介にも力を入れています。

第三に、切り絵によるしおり作りを行っています。たくさんの本を読んだり、必読書の内容に関するクイズで優秀な成績を修めたりした生徒に送られ、読書への意欲向上に努めています。

さらに、メンバーが研修に励み、図書にかかる知識、技能の習得に意欲的に取り組んでいます。



【清水おはなしグーチョキパー (静岡市)】

こんにちは！「おはなしグーチョキパー」です。

なぜ、おはなしグーチョキパーかというと”グーチョキパーでなにつくろう♪”の手遊びでおはなし会をはじめるからです！おはなし会は、この挨拶の後、ものがたりや昔ばなし、科学などの絵本やおはなし、紙芝居などを読んで、最後にグーチョキパーの手遊びとじゃんけんをしてバイバイする30分ほどのプログラムです。

ボランティア養成講座の修了生を中心に2010年発足。『こどもたちの笑顔のために』を活動目標に掲げ、今年で15年目となりました。おはなし会は、清水中央図書館1階おはなしのへやで、毎月第1土曜日2時から開催しています。みんな、あそびにきてね～♪



【焼津音訊の会ほおずき】（焼津市）

平成10年に図書館で開催された養成講座参加者の声で発足し、文化施設が発行するお便りの音訊、希望者に対するプライベート録音や対面朗読、小学校の福祉授業への参加、社会福祉協議会で開催される視覚障害者のコミュニティへの参加など幅広く行っています。令和2年からは作成した音声デジターを寄贈し、国会図書館やサピエを通じて多くの方に利用いただいています。

録音機材や場所が限られる中、様々な工夫を凝らし、時代や利用者のニーズに合わせた媒体で郵送するよう心がけています。

AIの技術が進み、私たちの活動も必要なくなる時がくるかもしれませんが、利用者からの「聞きやすい」というありがたい声がある限り続けていきたいです。



【図書館ボランティアどんぐり】（湖西市）

図書館ボランティアどんぐりは、「人形劇で昔話を伝えていきたい」という思いから平成4年に結成しました。

人形は不要な布で手作りし、大道具や小道具もメンバーの自作で、季節感のあるパネルシアターも組み合わせて上演しています。図書館をはじめ保育園やこども園、支援学級や学童施設のほか老人施設など幅広い年齢層の方々に人形劇を楽しんでいただいております。

結成から30年余りが経ちますが、今も昔も変わらない子どもたちのキラキラした眼差しと笑顔が私たちの活動の励みとなっています。

これからも、人形劇を通してたくさんの笑顔に会えるよう、私たちも元氣な笑顔で頑張っていきたいと思います。



令和6年度 第31回 静岡県図書館大会 講演会報告

徳川家康は本を読んで天下を取った

講師 小和田哲男氏（静岡大学名誉教授）

図書館という共通項を持ちながらも、図書館職員、読書会、ボランティア、利用者、学校図書館関係者…と、様々な立場の参加者全員が集まる講演会は、どんなを講師にお迎えするか悩むところです。本年度は、日本中世史の第一人者で静岡大学名誉教授の小和田哲男先生に、「家康は本を読んで天下を取った」と題して、静岡県民なら誰もが、そして図書館に関わるならばなおのこと、ぐんと引き込まれる講演をしていただきました。

NHK大河ドラマ「どうする家康」の時代考証の話から始められました。史実とドラマ制作の舞台裏のお話に興味は尽きません。本題の家康の読書ですが、今川家での人質時代、家康は優遇されて教育を受けました。雪斎から直接の教えを受け、四書五経など数多くの本を読み、歴史、兵法なども広く学んでいます。それらの知識が後の戦術や関東移封を受けたことにも表れました。また、家康は、雪斎の出版事業に倣い、伏見版、駿河版といった出版事業を立ち上げ、より多くの人が貴重な書物を読めるようにしました。散逸や劣

化から守るために貴重書の収集や書写にも力を入れました。大御所時代、駿府城内に設けられた駿河文庫の蔵書を見ても、本が好きだったことが伺えます。小和田先生は、本との関わりの遍歴から、家康は棚ばた式に天下を取ったのではなく、多くの本を読んで歴史や先人の失敗に学び天下を取ったと考えられると、お話をまとめられました。

静岡ならではの歴史から、興味深く、楽しく、生涯を通しての読書の大切さを説いていただきました。

（静岡県読書推進運動協議会理事 本田彰）



静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会報告

演題 東京子ども図書館の児童サービス ～50年の歩みの中で～

講師 鈴木晴子氏

(東京子ども図書館児童サービス主任)

会場 静岡県立中央図書館会議室

日時 令和7年2月16日(日) 13:30～15:30

参加者 82名

今年度は、東京子ども図書館の児童室主任である鈴木晴子氏をお招きしました。鈴木氏は東京子ども図書館の研修生を経て公立図書館勤務、海外青年協力隊の一員としてタンザニアで学校図書館の支援に尽力されたご経験があります。

ご講演では4つの文庫から始まった50年の歩みを紹介され、半世紀にわたる歴史の中で大切にしてきたことは、「くつろいだ空間におけるきめ細やかなサービス、子どもとの密接な関り」とのこと。

文庫の時代から読み継がれている本を核とした児童室の蔵書は約8500冊。新刊本は選書会議を経て配架されています。「本を選ぶことは質の違いを認める」ことであり「作品の質の維持・向上に参加すること」というお話から選書への確かな理念を感じました。

児童室の利用は3歳からですが、最初は「おやくそく」をして「お名前カード」を作成します。

この登録は、子どもの中に図書館のイメージを決定づける大切な仕事であるとのことで、改めて最初の出会いの大切さを痛感しました。カウンターでの子どもとの会話や、フロアでの子どもの一言を日誌に記録して、長いスパンで子どもの読書に寄り添っていくというお話に、子どもの読書の伴走者としての大切さを痛感しました。

ご講演では、ゆるぎない理念に基づく子どもの本に対する真摯な姿勢と、子どもへの温かなまなざしに胸を打たれました。当日は公共図書館で児童サービスを担当している方も多く参加され、今後の活動に多くのご示唆をいただいた一日でした。

(静岡県読書推進運動協議会理事

静岡県読み聞かせネットワーク会長 勝山高)



静岡県読書推進運動協議会推薦図書

シニア世代へのおすすめする本

『老い力 増補新装版』

佐藤愛子/著(リベラル社 2024.1)

『人生は美しいことだけ

憶えていればいい』

佐藤愛子/著(PHP研究所 2024.4)

『そもそもこの世を生きるとは 新装版』

佐藤愛子/著(リベラル社 2023.7)

若い人へおすすめする本

『えほん思考』

菊池良/著(晶文社 2024.8)

『13歳からの経済のしくみ

・ことば図鑑新版』

花岡幸子/著(WAVE出版 2024.6)

『自己家畜化する日本人』

池田清彦/著(祥伝社新書 2023.10)